

令和5年度第10回狛江市立公民館運営審議会会議録

- 1 日 時 令和6年3月26日（火）午後6時30分～7時50分
- 2 場 所 文京区青少年プラザ b-lab
- 3 出席者 斎藤謙一委員長、都築完副委員長、内海貴美委員、天野泰子委員、伊東達夫委員、細谷明美委員
事務局（浅井信治公民館長、瀧川直樹副主幹（兼）事業係長）
- 4 欠席者 岩瀬敏郎委員、長岡智寿子委員、伊勢亀慎司委員
- 5 傍聴者 0名
- 6 資 料 なし
- 7 施設見学
担当者の説明を受けながら文京区青少年プラザ b-lab 館内を見学
- 8 議 題
(b-lab 施設見学後に研修室にて審議)

委員長

具体的に内容がイメージできる答申にしたい。毎年の事業は、以前の青年学級で行っていたように、参加する子ども達に何をやりたいかを聞きそれを可能な限り実現できるような形で決める形にしたい。ただし、今日の施設のようにスタッフやボランティアをあれだけの人数をそろえるのは難しいと思うので、その点は工夫が必要である、また、新施設のサウンドスタジオは子ども専用の部屋ではないが、ティーンズルームとも連携させて考えていくべきであり、武蔵野プレイスのように子どもを優遇するかどうかを検討する必要があると感じた。

委員

学生スタッフでもある利用者もいるということであり、そういう人がいるとよい。数年かけて組織作りをしていくことが必要である。

委員

以前参加した市の委員会で大学のボランティアサークルと連携できないかという話が出たことはあるが、その時は実現しなかった。

委員

施設をどのように使うかという概念を決めることが重要であり、審議会の役割である。そのうえでどうやったら利用者を集めることができるかを考える。

委員長

スケジュールは厳しいが、9月ぐらいに答申を出して来年度予算に間に合うようにしたい。

委員

二つの素晴らしい施設を見学させていただいた。これらの施設は多くの時間と人手をかけて今の事業を行えるようになっている。改修が終わったらすぐにといいことだけではなくて、中長期的に考えて事業や組織を作っていくべきではないか。ボランティアスタッフを集めるのが難しければ、運営委託、指定管理等法人に任せる方法もある。

委員

事業の内容を考えるためにはアンケートをする必要がある。

委員

予算の話だけで言えば、来年度は組織作りのための人件費を計上するだけでよいと思う。答申自体は、目指すべき事業を行うためにどういうことが必要かをまとめるべき。

委員

中高生が自主的に活動する場所を提供するという考え方がよい。そのためには見守るスタッフが必要となる。

委員

中高生を集めるには周知が必要であり、登録制も考えられる。カードがあると自分の居場所という認識が強くなる。

委員

全体ミーティング等、組織に所属しているという意識づけも必要である。カードで図書館の本も借りられるようにしてはどうか。

委員長

具体的なお意見もいただいたので、今回も見学いただいた事を踏まえ考え方を整理していきたい。次回の審議会は4月30日(火)午後6時30分より行うこととする。